

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

はいさい

《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

開設50周年を迎えて —「わった一病院」として、これからも地域と共に—



沖縄協同病院
院長
いどまり こうじ
伊泊 広二

沖縄協同病院の開設50周年にあたり、日頃より当院をご利用いただいている患者様、そして運営を支えてくださっている組合員の皆様に、厚く御礼申し上げます。

地域の方々の「安心してかかれる病院が欲しい」という切実な願いから生まれた当院は、沖縄医療生協のセンター病院として、地域の救急・急性期医療の中核を担ってきました。どのような時も「無差別・平等の医療」「差額ベッド料を頂かない医療」を掲げ、24時間365日の救急や手術などを必要とする医療の最前線に立ち続けてきたことは、私たちの誇りです。

現在、日本の医療、特に急性期病院の経営環境は「冬の時代」とも言える厳しさの中にあります。国が進める急性期とかかりつけ医の機能分化や、選定療養費の義務化など、私たちが大切にしてきた医療にとって逆風は強

まるばかりです。さらに、看護職員の不足や、資材・エネルギー価格の高騰などが、病院運営に重くのしかかっています。

この厳しい時代を生き抜き、地域の医療を守り抜くためには、病院と地域がこれまで以上に手を取り合う必要があります。誰にでも平等な医療を提供する当院の役割は、ますます重要になっていると確信しています。これからも、私たちは「困ったときに一番に頼れるわった一病院」であり続けるために、医療の質の向上に努め、皆様の声に耳を傾けてまいります。どうかこの病院を、一緒に育てていただければ幸いです。

50年の歴史を胸に、これからも皆様と共に歩んでいきたいと思ひます。今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。

今昔フォト 沖縄協同病院



過去



現在

病院の活動状況 ＜2026年1月度＞

- ・ 外来一日平均患者数：231人（前年同月比 -81人）
- ・ 入院一日平均患者数：254人（前年同月比 -22人）
- ・ 組合員利用分量(率)：62.3%（前年同月比 +2.5%）

『もしものとき』がくるその前に

いし堂 229 内科より



日本は諸外国と比較し高齢化が急速に進行しており、2025年の人口推計では65歳以上の方は3624万人(総人口のうち29.3%)、75歳以上の方は2078万人(総人口のうち16.8%)と

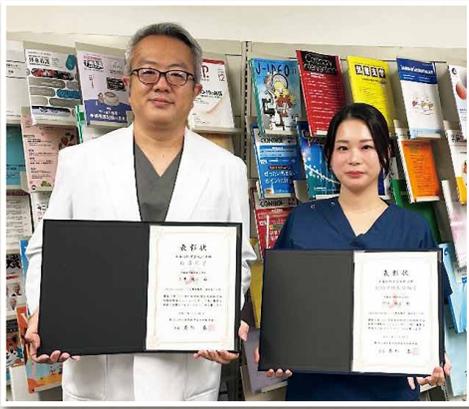
言われています。病院へ通院・入院される患者さんも同様で、90歳を超えるような患者さんが以前より増加しているように感じます。年齢を重ねるにつれて身体機能は低下し、病気が増え、突如の病状悪化のリスクが高くなります。さらに、病状悪化のみならず認知機能低下が重なることで「自分自身の人生の在り方」を選択・決定するといった、意思決定能力がなくなってしまうことも少なくありません。そこでACP(アドバンス・ケア・プランニング)がとても大切となります。

ACPとは「万が一、病気や認知症などで意思決定能力がなくなった場合に備えて、患者さん・家族や友人・医療従事者が前もって話し合い、本人の価値観やゴールを共有する『過程』のこと」と言われますが、突然言われてもピンとこないと思います。難しく考える前に、まずは「あなたが人生で大切にしていることや、楽しみ、幸せを感じる」といった価値観を周囲の人と共有することから始め、その先の段階として「万が一、心臓が止まったときに心臓マッサージや人工呼吸器をつけることを希望するか」「万が一、食事が食べられなくなったときに胃ろうを希望するか」「自ら意思決定ができなくなったとき、あなたのことを理解して代わりに決めてくれる人はいるか」「最期のときをどこで、誰と、どのように過ごしたいか」と万が一についての話をすると気持ちの整理がつきやすいかもしれません。

患者さん本人の意思を尊重した医療やケアを提供し、尊厳ある生き方や最期の迎え方を実現するために、『もしものとき』についての話を事前にしておくことが、近年ひととき重要性を増していると考えます。

内科 大城 俊貴

初期研修医奨励賞・指導医賞受賞



日本内科学会九州支部学術集會に参加し、初期研修医奨励賞を受賞することができました。この成果の背景には、日々温かく熱心に指導して下さった上級医の先生方の存在があります。指導医の石井隆弘先生(感染症内科)は、今回の発表の要となった環境培養実験にも一緒に取り組んでくださり、研究の進め方だけでなく物事に取り組む姿勢そのものを教えてくださいました。

また、他県での別の学会を終えた直後にもかかわらず、永村先生と小川先生(消化器内科)が駆けつけてくださり、会場で心強い応援をいただきました。学会発表前にはモーニングカンファで予演

会の機会をいただき、多くの先生方から貴重なアドバイスをいただきました。その内容を発表スライドに反映し、石井先生と前日まで内容をすり合わせたことで当日の自信にもつながりました。初めての学会発表で緊張もありましたが、先生方に支えていただいたおかげで、自信を持って臨むことができました。恵まれた環境で学んでいることに改めて感謝し、今後も研修医として成長していきたいと思ひます。

1年目研修医 前田 絢香



<ご意見>

外来のイスが汚れて座るのがためられます。特に黒いイスは目立ってきません。

拭いてないのですか？

<回答>

外来の待合のイス・ソファは職員が毎日始業前と終業時に2回環境整備クロスを使って拭き掃除を行っています。ご意見を受けてから汚れて見えるイスを実際に拭き掃除してみましたが、やはり患者様が感じたのと同じく汚れて見えるという結果になりました。

拭き掃除に使用しているクロスは消毒のため薬剤が含まれており、少しずつ表面を剥がしてしまう結果になっている様です。最近では劣化の少ない薬剤を含んだ清掃クロスも出ているので今後採用を検討したいと思います。

現在破れや壊れかけているイスなどの補修や張替などを優先にすすめているところです。もう少し時間を頂いて順次改善していきますので、しばらくの間ご理解とご協力をお願いいたします。貴重なご意見ありがとうございました。

事務次長 座安 樹

こんにちは
赤ちゃん

当院で出生したBabyの写真です



中山満月ちゃん



田中灯香ちゃん

Instagramやってます
@okikyo.sanka



私の部署の好いところ

総務課

総務課は合計14名の職員が在籍しています。

庶務、給与処理、電話交換、院内駐車場管理・誘導、職員駐車場管理、送迎車両運転や救急搬送対応などの業務を行っています。設備管理や清掃作業等は委託業者と協力しながら多彩な業務に対応しています。明るい職員も多く毎日楽しく業務をこなしています。

当院を利用する組合員をはじめ患者様が利用しやすい環境となるよう職員一丸となってこれからも縁の下力持ちとして頑張っていきたいと思ひます。

総務課長 安座間 太一



患者相談窓口



担当窓口: 医療安全管理室
医療事務課

場所: 患者相談窓口(1階 総合受付横)

相談時間: (月~金) 午前 9:00~17:00

*上記以外の時間帯や救急時間帯については、お手数ですが1階受付へお尋ね下さい。

お電話での相談もお受けしております。
沖縄協同病院 電話:098-853-1200(代表)



まじゅん! 田んぼの名札「印部石(ハル石)」

浦添大公園 Bゾーン・浦添市仲間



公園のすみにポツン「あさと原・ハル石」

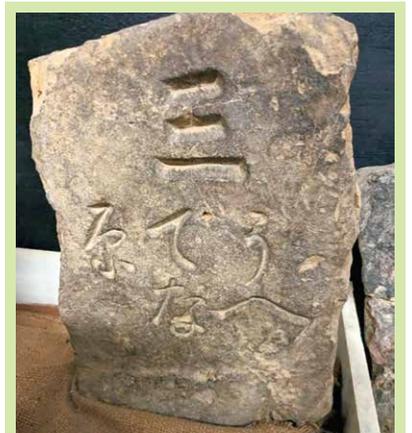
浦添大公園の遊歩道の脇道に奇妙な石積みがある。一見、お墓にも見えるが、これは「印部石(しるび石)」という琉球王国時代の表示板である。畑(ハル・原)の登録に使われたので「ハル石」ともいう。1737年~1750年、三司官「蔡温」が全琉球に命じた『乾隆検地』で、田んぼ・畑の正確な広さを測量するための基準点として300カ所以上も築かれた。



浦添市の説明板によると「ハル石」前の広場には田んぼが広がっていたらしい。

蔡温は羽地大川の治水対策や、山原への植林、そして「乾隆検地」と名宰相としてその名を歴史に残している。しかし、農政での高い評価は権力を持つ側の見方であって、百姓からすれば、ほんのわずかな田畑でも見逃さず年貢を取り立てるためのシステムに過ぎない。まるで中小企業をいじめるインボイス制度のようだ。

『ハル石』には区分整理のカナとその土地・畑の名が刻まれた。浦添のハル石には、今ははっきり見えないが「ス」「あさと原」と刻まれていた。



今帰仁村歴史文化センターのハル石。カタカナの「ミ」に「うてへな原」と彫られている。

高台の畑は「上原」、集落の後方なら「後原」などと名付けられた。検地があまりに徹底されたため、沖縄本島の小字名90%が「~原」の地名になったという。薩摩への上納が重く、琉球の厳しい財政事情ゆえの策だった。

さんぽ人 宮城 じゅん